
裸の裸王様 番外編集

はらぺこ姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

裸の裸王様 番外編集

【Nコード】

N7925Z

【作者名】

はらぺこ姫

【あらすじ】

裸の裸王様の番外編です。

個々に読んでも大丈夫なように努力はしています。

將軍様のクリスマスの過ごし方（前書き）

將軍視点です。

甘々にしたかったのですが、私の力量ではここが限界でした。

將軍様のクリスマスの過ごし方

今日の仕事を終え、屋敷に入ると、玄関に大きな物体が寝そべっていた。

よく見ると、その物体は龍だった。

龍の横には、一人の少女が立っていた。

さらさらとした黒髪は、腰の辺りで真っ直ぐに切りそろえられ、普通の服を着ているものの、翡翠色の瞳が表すものは。ついでに言う
と、龍は神告の巫女の乗り物で。

神告の巫女の特徴ともいえるその瞳は、俺のことを見ていた。

「お久しぶり、ですか？」

柔らかに微笑む。

俺が知ってる姿より、幾分か成長している彼女は、それでもあの頃と変わらない笑みを湛えていて、それにほっとする自分が居る。

「ああ、そうだな。姫巫女ともなると、なかなか外に出られないものな。今日はどうした？総帥と一緒にじゃないのか？」

いつもなら、護衛としてついていはずの総帥がいない。

この国の要でもある彼女だ、一人で出歩くなんてことが許されるはずもなく。

「近くには居ますよ。でも、少しだけあなたと話がしたくて」

それは、二人きりにしようという彼なりの気遣いなのだろう。

「私も、無事成人することが出来ました。ですから、神殿に来ていただけますか？」

まるで謎かけのような物言いに、俺の心臓がトクリと音を立てた。

「まさか」

その言葉の意味を理解した俺に、彼女はゆっくりとうなずく。

「私も成人したばかりなので、夜しか力が安定しません。でもっ」

俺の為に彼女は、結構無茶をしている、ということか。

「馬鹿だな。お前が無茶をしてまで、会いたかったわけじゃあないぞ」

つい、昔のように頭をくしゃくしゃと撫でる。

彼女は、判つてると小さな声で答えただけにとどめた。

そして、俺達は龍に乗り、神告げの巫女の神殿に向かった。

神殿の一室に案内され、そこで、しばらくの間待つように言われた。

それからしばらくして、ノックの音に振り向く。

と同時に、胸に柔らかい物体が飛び込んできた。

「会いたかった」

ほんの少しの涙声で彼女はつぶやいた。

その声に、昔、四人で旅をしていた頃の自分がよみがえる。

「俺もだよ。ツィア」

そして、ツィアの柔らかな髪を撫でてやる。

炎のように赤くうねった髪は、俺が覚えている時とちつとも変わってなくて。

炎の精霊の特徴でもある、ルビーのような瞳はまだ涙に濡れていた。

「ルーシエが、大人になったら、精霊を召還できるようになるから、そのときは絶対アタシを一番に召還してくれるって約束してて。ずっとこの時を待ってたんだ。今はまだほんの少ししかここには居られないけど。仕方ないよね。アタシの力が強すぎるから。」

そういつて、ツィアはふふつと笑った。

「そうなのか？でも、ルーシエが大人になったのは少し前だぞ。なんで今日なんだ？」

疑問系の俺に、ツィアはぷつと頬を膨らませた。

「ルーシェに聞いたの。今日は恋人同士が過ごす日なんでしょう？
その日にあわせて力を貯めたっていったわ」

なぬっ！それを知ってたら、来なかった。

ツイアに一番会いたかったのは、ルーシェだろうに。

それに、俺たちは恋人じゃないぞ。

「やっぱり、そう言うと思ったから、ルーシェも黙ってたのね。あの頃とちつとも変わってないわね。全く素直じゃないんだから」

だからといって、俺に馬乗りになるのはやめて欲しいんだが。

日ごろの俺を知っている部下が、簡単に女性に押し倒されている姿を見たら、信じられなくて卒倒するだろうな、と冷静に考えている自分と、これもアリかなと思う自分が格闘している。

「そういうことで、アタシと離れていた間の話、あなたから聞かせてくれるわよね？」

キラキラと瞳を輝かせて見つめてくるツイアに、早々に白旗を揚げた俺は、ゆっくりと話し始めるのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7925z/>

裸の裸王様 番外編集

2011年12月25日14時46分発行